

麦



WEB掲載用 抜粋版

2012年7月18日 119号

埼玉親の会「麦」発行

E-mail ldmugi@hotmail.com

http://ld-mugi.sakura.ne.jp /



特定非営利活動法人全国LD親の会・第5回総会報告



6月16日(土) 国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて、特定非営利活動法人全国LD親の会第5回総会が開催され、麦から代表が出席しました。内藤理事長の挨拶の後、議長を選出、正会員46団体のうち総会出席22団体、委任状出席19団体、合計41団体の出席が確認され、総会が成立したことが宣言されました。続いて、第1号議案～第4号議案の決議及び理事会決議事項のについての報告があり、賛成多数により決議されました。理事長のお話の中に「障害者自立支援法ができて7年、精神障害に含まれると明記されましたが、政策には未だ充分といえないものがあります。各会においても現状を見据えたしっかりとした活動を」とありました。私たちも子どもたちが自立して生活できる社会を目指して、小さなことでもできることからやっていたらと改めて感じました。総会についての詳細は代表までお問い合わせください。

記事(代表K)

全国LD親の会主催の研修会に参加して

6月16日『LD等の発達障害のある人の就労にむけて』と題して会員調査報告と二つの親の会の取り組みについての発表がありました。「教育から就業への移行実態調査報告書Ⅲ」によると障害者就労の増加、精神障害者福祉手帳取得の増加が見て取れる。支援学校→すぐに就労に対して、通常学校→支援利用→訓練→就労となっている。最近では高学歴化がすすんでいるが、必ずしも就労に結びついていない。むしろ24、25歳になると支援制度を使うにも抵抗がある。就労の年齢別では18～22歳までは多いがそれ以降は減少傾向にあり、就労の継続が難しいことがわかる。以上の理由で在宅も増加していて親の負担が大きくなっていることがうかがえる。事例発表は北海道「クローバー」が就労支援事業の一環として体験農園を実施、実際の農園で種まきから収穫までを体験させ仕事の困難さ、面白み、達成感を味わうことができた。こうする事で働くことの意味を理解できる内容になっているとの事でした。一方、東京「けやき」は就労を見据えて中3～高校生を対象にキャリア教育講座Wingを実施、社会人としてどう生きていくか、子どもの「生きる力」を育てることを目指すため、障害者職業センター、就労支援センター、ハローワーク等々と連携して取り組んでいるとの事でした。

記事(M)

第11回全国LD親の会公開フォーラムに参加して

午前中は国立特別支援教育総合研究所の柘植氏による講演会の後、特別支援教育、発達障害者支援行政に携わる文部科学省課長千原氏、厚生労働省の室長 辺見氏により行政および発達障害者支援法の最新情報、および今後の方向性について解説をいただきました。午後は休憩をはさみ、お茶の水女子大 篁氏、毎日新聞社 野沢氏による講演会の後、全国LD親の会の内藤氏を交えてのパネルディスカッションで会が終了となりました。

講演会の内容も当事者への支援のあり方から親への支援、発達障害者と社会のあり方など多岐に渡り、大変勉強になるとともに、色々な生き方や選択肢があるのだと前向きな気持ちになれました。また、行政に携わる方から発達障害者へのサポートが今後どういう形ですすんでいくかという実務的なお話を聞いて、大変参考になりました。

記事(M, K)

5月全体例会

全体交流会

5/21(月) 浦和コミュニティーセンター第15集会室 参加28名(教育G15名、就労G9名、見学4名)

今回はだいたいの地域ごとにA・B・C・D・Eの5つのグループに分かれて座りました。子供の年齢はいろいろです。まず、事務局から、要望書の説明と今日のフリートークの進め方についてお話がありました。その後、各グループの進行係中心に「悩んでいること・希望すること」を各自フセンに書き出しました。学校、夫、兄弟、いじめ、就労——皆、共通の悩みです。正解はないですが、先輩から「私はこうしてきたよ」という解決策のアドバイスがいろいろ聞け、尚かつ全員の発言の記録が残る、とても有意義な会でした。そして、それを井戸端会議に終わらせず、親の会として行政に要望書を届け続けてきた事により、少しずつ世の中に発達障害が認知されてきたプロセスが勉強できました。 記事(S)

地域活動報告

越谷発送&おしゃべり会

5月30日(火) 越谷中央市民会館 参加人数 9名

入会してまだ1年たっていない私ですが、初めて発送作業に参加させていただきました。20分くらい遅刻してしまったのですが、皆さんにこやかに迎えてくださいました。作業終了後、時間がある人だけ一緒に昼食を食べました。どこの病院に通っているとか、学校では何を勉強している等、普段なかなか聞くことのできないお話をいろいろなお母さんから聞くことができました。息子の障害がわかってから、ちょうど1年になりました。私自身がまだ現実のすべてを受け止めることができないような気がします。また機会がありましたら、いろいろなお母さん方からお話を聞いて、子供のために何ができるか、勉強させていただきたいと思います。 記事(SJ)

教育グループ活動報告

教育グループおしゃべり会

6月21日、大宮駅近くの「ケンタッキー」に、見学者2名を含む14名が集まりました。すぐにおしゃべり会が始まったのですが、もっと話のしやすい店へ場所を移し、ランチを取りながらおしゃべりが再開されました。5月に新入会させていただいた私にとっては、初めての方ばかりでしたが、すぐに親身になって話に耳を傾けてくださり、いろいろな体験談や情報等、今までずっと気になっていたこと、知りたかったことを聞かせていただくことができました。これまでの見方や考え方を変えるきっかけになったり、確かな情報を教えてもらったりすることは大変ありがたく、こうして足を運んで会員の方と話をさせてもらわなければ得られないことなので、大変有意義でした。特に子供の年齢の近いお母さん方とは直面し抱えている悩みも似ていて、解決策を今すぐに見いだせないままでも、普段は誰にも話せる内容ではないので、悩みを共有し合えたと思えるだけで心が軽くなり嬉しかったです。会の活動内容等については、これから少しずつ勉強させていただき、会員の皆様に近づいていきたいと思っています。皆様、どうぞよろしく願いいたします。 記事(K)

動作訓練

7月1日(日) 上落合公民館(参加者 4組 内体験 3組)

《感想1・小4の母》先生によると常に肩に力が入りすぎているとのこと。それを治す為には肩の力を抜くことです。言葉で言っても、当然本人には理解できません。先生は体を使って、息子に教えてくれました。すぐにこの癖は治らないそうですが、1日1回この抜くということを自覚させていくことがいいそうです。長い目で実践して行こうと思います。《感想2・小2の母》息子は先生に体の上に乗られても、声をかけながら、褒めてもらいながらだったので「何だか楽しかった」と言っていました。《感想3・小5の母》我が子ながら、あんなに体が硬いなんてびっくりしました。いつも猫背で腹筋と背筋が弱いくらいにしか思っていなかったです。体の使い方を覚えたら、もう少しできることが増えそうない予感がしています。



5月24日(木)さいたま障害者就業サポート研究会の総会と定例会が埼玉トヨペット本社会議室において開催されました。定例会では、埼玉障害者職業センター所長の吉田泰好氏より「障害者の就労支援のこれまでとこれから」というテーマでお話がありました。吉田所長の長いご経験を織り交ぜながら、企業を取り巻く状況の変化について説明がありました。始めは障害のある人に対する支援中心だったのが、現在企業に対するサポートも出てきたことや雇用の中心が中小企業中心になってきたことなどをお話しいただきました。保護者の立場でお話をお聞きして印象に残ったのは、「雇用に当たり事業所が重視する事項」として6項目を挙げられ、自分の課題を明確にしておくことの大切さをお話しされたことでした。「障害だから仕方がない」という姿勢ではなく、何が苦手とどうしたらよいかを考えて行くことが必要と感じました。また、質疑応答の中で質問者の方から「企業の立場から言うと学校は親切で優しいところ」とのご意見もあり、職場の厳しさ、お給料を頂くということの責任をもっと意識しなければいけないのだと痛感した次第でした。 記事(K)

おしゃべり会

5月8日(火) 浦和コミュニティセンター第15集会室 参加者8名

就労グループのおしゃべり会が開かれました。我が家の子供はまだ小学生ですが、就労のことは、やはりとても気になっているのでお話をうかがいに参加させていただきました。まずは一人一人の自己紹介から始まり、先輩の方々の貴重なお話を聞かせていただきました。子供の将来に関しては、先が見えない中手探りで歩いているような感覚ですが、こういったお話をうかがうことはとても参考になります。その後、就労グループの今後の活動についての話し合いが行われました。親の会として、子供たちのために積極的に行政やサポート機関と関わりを持っていく！という先輩方の熱い姿勢に励まされました。皆様も、是非さまざまな企画にかかわって、参加してみてください。得られるものがたくさんあると思います。本当にありがとうございました。

記事(Y)

埼玉障害者職業センター就労支援室見学

6月8日(金) 10:00~12:00 参加者 8名

最初に、埼玉障害者職業センターの業務について説明があり、発達障害者就労支援カリキュラムについてのお話がありました。このカリキュラムは、12週間かけて、問題解決技能トレーニング、職場対人技能トレーニング(JST)、リラクゼーション技能トレーニング、マニュアル作成技能トレーニングの就労セミナー、作業、個別相談などをしながら、ナビゲーション・ブック作成を行っていくものです。その中で、JSTとナビゲーション・ブック作成についての詳しくお話ししてくださいました。

JSTは、これから職場を目指す方のために、基本的な対人マナーの技能を習得することを目的としています。JSTの進め方は、テーマを決め、スタッフが悪い見本とよい見本をみせて、それぞれの意見や感想を述べあってから、ロールプレイをしながらゲームを進めていき技能を習得して、「作業」場面で修得した技能を活用してトレーニングしていきます。ナビゲーション・ブック(自己紹介書)作成は、毎週、プログラムで明らかになった、性格傾向、行動パターン、課題とその解決策を自分の言葉でまとめます。作成したナビブックは事業所実習の際の説明資料、面接対策や就労後も職場で利用しているそうです。雇用後もジョブコーチを一定期間(平均3ヶ月)事業所に派遣する制度があり、必要な関係調整や橋渡しを行っているとのことでした。

発達障害者の就労に関してはまだまだ、きびしい現状ですが、このような講座ができるような施設を増やして、発達障害者の就労支援していただけるようにしてほしいと思いました。

終了後、残れるメンバー(4名)で昼食を食べながら、子どもたちの進路のこと、将来のことなどを話しました。とても有意義な一日でした。

記事(Y)



さいたま市発達障害者支援連絡協議会

7/5（木）さいたま市発達障害者支援連絡協議会が行われ、就労 G 役員が委員として出席いたしました。詳細は、役員までお問い合わせください。

① さいたま市発達障害者支援センターの相談状況の報告 昨年度の実績（抜粋）

相談件数 3100 件、相談人数 786 人、相談が増加している。19～29 歳の利用が全体の 40%と高い。

② 潤いファイルの成人版とサポートカード

潤いファイル成人版作成の中で、自己（特徴）理解チェックリストの内容を検討。



児童相談所とところの健康センターの相談事例から、サポートカードの必要性を再確認。

思春期や成人期でサポートカードが必要となる例を、「麦」から資料を提供。具体案 3 例を基に話し合い。

③ その他

さいたま市教育委員会指導 2 課特別支援教育係からリーフレットを 2 種類配布。 各 A4 の 3 つ折り

さいたま市発達障害者支援センターが新たにガイドブックを 3 種類作成配布。

「発達障害をもつあなたへ」「家族の方へ」「支援者の方へ」 各 A5 版で 12 ページ 記事 (H. Y)



さいたま市誰もが共に暮らすための市民会議

7/6（金）「第 1 回さいたま市誰もが共に暮らすための市民会議」が行われました。私はファシリテーターを依頼され、ファシリテーターたちは 6/27（水）に事前打ち合わせを行いました。今回の議題は、「障害者を取り巻く状況」と「次回以降の市民会議に期待すること」の 2 点。私のグループ F 班では、「聴覚障害のために、代理人に電話してもらったが、電話の相手から本人からの直接電話でないことを理由に、こちらの依頼を拒否された」「18 歳以上になると、児童医療機関を受診できず、初めて受診する成人医療機関が不安。児童から成人まで継続受診できる医療体制が欲しい」「発達障害の原因を、伝統的な子育てをしなかったからと誤解される苦痛」などが挙げられました。様々な立場の方の意見を伺うことは、とても勉強になります。市民会議に関心のある方は、さいたま市障害福祉課までご連絡ください。 記事 (H. Y)

☆つぶやき☆

梅雨ですね。この時期イライラしている人が多く感じます。湿気
プラス 蒸し暑さ 4 月からの新生活に不平・不満がでてきたのでしょうか？この“イライラ”人から人へ移ると思いませんか？もしかして インフルエンザよりも強い感染力があるかも・・・。
皆さんは、相手のどんな言葉に「イラッ！」ときますか？私は「はあ〜っ?!」と言う聞き返しの言葉です。この続きはまたの機会がありましたら、つぶやかして下さい。 K・A



あとがき

機関紙メンバーがアイデアを出し合い、毎日子育てが少しでも楽しくなって、会員の皆様が少しでも活動に参加できるように、との思いで今月も作りました。個人で参加した講演会等、おすすめの本、TV 番組の感想も大歓迎です。

ところで私のおすすめ TV 番組は、毎週金曜夜 E テレ「障害者情報番組バリバラ」いつも、笑ってしまう内容なのですが、先日のテーマは「子育て」。

「子どもは、ママの笑顔が大好き」の一言を聞いて思わず、ホロリとしてしまいました。明日も笑顔がみせられるようにがんばりましょう。(YY)